

Title	小幡篤次郎著作目録
Sub Title	
Author	住田, 孝太郎(Sumita, Kotaro)
Publisher	慶應義塾福澤研究センター
Publication year	2004
Jtitle	近代日本研究 No.21 (2004.) ,p.131- 137
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集・小幡篤次郎没後百年
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-20040000-0131

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

小幡篤次郎著作目録

住田孝太郎

ここに紹介するのは、小幡篤次郎の著作目録である。作成に当たっては、『富田正文氏旧蔵書籍目録』（慶應義塾福沢研究センター、二〇〇二年）、三橋猛雄編『明治前期思想史文献』（明治堂書店、昭和五一年）および『図書館所蔵三橋文庫目録』（東京経済大学創立九十周年記念展示実行委員会、一九九〇年）、丸山信編『福沢論吉門下』（『人物書誌大系』

30、紀伊国屋書店、一九九五年）を参考にして、そこに記載されているものは原本なり復刻版に当たって遺漏なきを期した。但し、これらは彼の遺した文献の全てを網羅している訳ではない。本目録においては、復刻版『郵便報知新聞』一―八二巻（郵便報知新聞刊行会、柏書房、一九八九年）における小幡論説の有無を調査した結果、その他を含めて現時点で

知り得た限りの彼の著作を紹介する。また、これまでに彼の著作を掲載した刊行物や、研究文献で彼に触れたものも併せて掲載する。書誌条項にはまだ不備な点や不統一が残っているが、ご宥恕いただきたい。

本目録作成に当たって、西沢直子、竹田行之両氏より幾つかの史料について貴重なご教示を頂いた。

凡例

翻訳作品の場合、複数回に分けて発表されたものがある。分かりやすいように、通し番号を付した。ここに記載したものは原則として小幡の記名のあるものである。但しNo41については、『福沢論吉門下』では小幡の著作となっているものの、

『交詢雑誌』に彼の記名はない。しかし、交詢社私擬憲法と小幡の関係や、記名のないことを以て彼の著作ではないとも断定し難いことを考慮し、本目録では参考として記載した。No.42 江口高達『各国憲法撮要上』の内容を見る限りでは、『交詢雑誌』上での『各国憲法提要』も小幡によるものではなく、江口のものである可能性が高いように思われる。また『ビゾラ氏英文典』という書も『福沢諭吉門下』に記載されていたが、原本に彼の記名はなかった。これについては小幡のものである積極的理由が見当たらなかったので割愛した。

明治元年（慶応四年）

- 1 『英文熟語集』小幡篤次郎・甚三郎共纂、尚古堂、八六丁。慶応四年三月。
あき書房より復刻版あり。
- 2 『天変地異』（纂訳）慶應義塾蔵版、二七丁。明治元年秋。
『明治文化全集』改版 第二七巻所収。二種類の偽版あり。
- 3 『洋兵明鑑』巻一〜五 福沢諭吉・小幡篤次郎・小幡甚三郎合訳、尚古堂、二二八丁。明治二年春。
Emil Schalk, *Summary of the art of war, 2nd*. 『福沢諭吉全集』第二巻所収。

4 『博物新編補遺』全三巻、尚古堂、全一一七丁。明治二年春。
Robert Chambers, *Introduction to the Science*, 1836. の部分訳。

5 「牧牛の説」（訳）『新塾月誌』一号、明治二年三月。

『明治文化全集』改版 第五巻所収。原典不明。

6 「綿羊を牧するの説」（訳）『新塾月誌』一号、明治二年三月。

『明治文化全集』改版 第五巻所収。原典不明。

7 『西洋各国錢穀出納表』（抄訳）尚古堂、慶應義塾蔵版、五四丁。明治二年冬。
マルチン著『ステートスマン・イールブック』。一八

六九年。F. Martin, *The Statesman's Year-Book* か。

8 『生産道案内』（訳述）上下巻、尚古堂、慶應義塾出版局、四八丁。原典不詳。明治三年五月。

序文に、本論を補うものとしてマンチヴール（マンデヴィル）第四リードルからの抄訳あり。本論部分は渡辺二郎翻刻『経済説略』（駿州、無尺蔵版、明治二年）
The Compendium of Political Economy : from the Lesson Book / Edited by Watanabe & co. / At Namada. Maize 2nd (II アダム・スミス『国富論』分業論の一部分抄訳を含むとされる) の訳出。

- 9 【英式艦砲全書 一名英国官船大砲操練書】(訳述) 全三巻、御用御書物所・紀伊国屋源兵衛、九〇丁。明治三年。一八六五年刊、英国官校海軍大砲操練書の訳。原典不詳。
- 10 【英氏経済論】第一編～三編、慶應義塾出版社。明治四年。
- F. Wayland, *The Elements of Political Economy*, 1837 の全訳の初刊。
- 11 【学問のすゝめ】初編、福沢諭吉・小幡篤次郎同著、慶應義塾蔵版、一二丁。明治四年二月。
- 【福沢諭吉全集】第三巻所収。
- 12 【英氏経済論】第四編～六編、明治六年八月。No.10の続編。
- 13 【上木自由之論】(抄訳) 一冊、私家版、一六丁。明治六年十一月。
- A.D. Toqueville, *Democracy in America*, translated by Henry Reye. New York, 1873 の出版自由の一節。『郵便報知新聞』(明治八年七月八、九、一四日) 紙上でも発表。『明治文化全集』改版 第二巻所収。
- 14 【会議弁】(合訳) 一冊、福沢諭吉・小幡篤次郎・小泉信吉合著、慶應義塾、二八丁。
明治六年六～七月頃。『福沢諭吉全集』第三巻所収。
- 15 「農ニ告ルノ文」『民間雜誌』第一編、明治七年二月。
【明治文化全集】改版 第五巻所収。
- 16 「内地旅行ノ駁議」『民間雜誌』第八編、明治八年二月。
【明治文化全集】改版 第五巻所収。
- 17 「三田演説会舍開館ヲ祝スルノ文」明治八年五月一日。
「三田演説会資料」(慶應義塾福沢研究センター、一九九一年) 所収。
- 18 「嫡子ニ限り家督相続ヲ為スノ弊ヲ論ス」『民間雜誌』第十一編、明治八年五月。
【明治文化全集】改版 第五巻所収。
- 19 「弥兒氏宗教三論」『郵便報知新聞』七三八号論説(二分訳出) 明治八年八月二日。
J.S. Mill, *Three Essays on Religion*, 1874. の抄訳。
冒頭に七月三日演説とあり、「植木枝盛日記」にも「七月三日三田演説会へ行。(中略) 小畑氏(小幡)自然に任すべからざる論」との記述があることから、三田演説会での演説を転載したものとされる。
無題論説『郵便報知新聞』七三三号社説、明治八年七月二六日。
讒謗律・新聞紙条例について論じたもの。
- 20 無題論説『郵便報知新聞』七四九号論説、明治八年八月一四日。

艱難と安佚ノ圧制と自由について。讒謗律・新聞紙条例への批判。

- 22 無題抄訳『家庭叢談』二三号・二九号・三四号、明治九年一一一二月。

前出トクヴィル『アメリカの民主主義』からの抄訳。

「アメリカ連邦における公共精神について」「アメリカ連邦における権利の観念について」「アメリカ連邦における行政的的分権の政治的諸効果について」各章訳出。

- 23 「万来舎之記」『家庭叢談』二七号、明治九年二月二日。

明治一〇年

- 24 「迎年ノ辞」『家庭叢談』三七号、明治一〇年元旦。

- 25 「経済入門」(抄訳)、出版人・小幡篤次郎、七七頁。明治一〇年六月。

No 8 「生産道案内」の改題再版。

- 26 「英氏経済論」第七、九編、明治一〇年一〇月。No 10・12の続編。

- 27 「弥児氏宗教三論」第一編、出版人・丸屋善七、八六頁。明治一〇年九月。

No 19のミル『宗教三論』の単行本、全訳。

- 28 「女工場の開業を祝するの文」明治一一年一月一九日。

- 29 「弥児氏宗教三論」第二編、出版人・丸屋善七、七六頁。明治一一年八月。

出版は第二編まで。原稿は全訳分あり。

- 30 「議事必携」(訳述) 出版人・小幡篤次郎。明治一一年八月。

英国のReginald F.D. Palgrave, *The Chairman's Handbook*

- 31 「外国貿易」『郵便報知新聞』一六八三号社説、明治一一年九月五日。

- 32 「金禄公債」『郵便報知新聞』一六九五号社説、明治一一年九月二〇日。

- 33 「洋銀ノ騰貴」『郵便報知新聞』一七一九号社説、明治一一年一〇月一九日。

- 34 「紙幣減却論ノ一」『郵便報知新聞』一七二八号社説、明治一一年一〇月三〇日。

- 35 「朝鮮事件」『郵便報知新聞』一七五八号社説、明治一一年二月六日。

- 36 「長沼村不動堂古額ノ記」明治一二年三月五日。

「専門学校ノ切要ヲ論ズ」(演説) 東京学士会院にて。明治一二年六月一日。

「学問と知識人」(『日本近代思想大系』一〇、岩波書店、一九八八年) 所収。

- * 38 「東京生命保険会社創起見込書」緒言、明治一三年六月。

- 39 「交詢社第一紀年会報告」『交詢雜誌』三七号、明治一四年二月五日。
- * 40 「英国憲法論」序文。英国シエルドン・エモス著、洪江保・山田要蔵合訳。小幡篤次郎序。明治一四年七月。出版人・洪江修。九五頁。
- 41 「各国憲法提要」『交詢雜誌』五二―五五号・五七号、明治一四年七月五日・一五日・二五日・八月五日・二五日。
- 42 「各国憲法撮要」上・序文。江口高達訳・版（熊本県土族）、小幡篤次郎序、一〇三頁。明治一四年九月二日。
- 43 「条約改正論」『交詢雜誌』七八号、明治一五年三月。
- 44 「埼玉県下熊谷駅ノ談話会ニオケル小幡篤次郎演説筆記」『交詢雜誌』一〇三号。明治一五年二月五日。
- 45 「豊紀」二州巡回紀行」『交詢雜誌』一一八号、明治一六年五月五日。
- * 46 「印度顛覆史」序文章稿。マッコレー著、山田良作訳。明治一七年四月ないし五月。博聞社。
- Macaulay, T. B. *Warren Hastings, An Essay.*
- 47 「致富論」『交詢雜誌』一四五・一四六号、明治一七年三月二五日・二五日。
- 48 「不換紙幣論」(訳)『交詢雜誌』一四八・一四九号、明治一七年四月一五日・二五日。
アマサ・ウォーカーの一節訳述。
- 49 「鉄道論」『交詢雜誌』一五五号、明治一七年六月二五日。
- 50 「船用汽機新書」(訳)全四卷、英国リチャード・センネット原著、横須賀海軍造船所、五〇〇頁。明治一九年一月。卷三は明治二四年八月一日、卷四は同年一月二四日に刊行されているが、小幡の記名はなく原著者名のみが記されている。これら共に発行所・水交社、著作兼発行者・鈴木光長となっている。
- 51 「小学歴史階梯」小幡氏蔵版、明治一九年五月。発肆・東京・中近堂、大阪・同支店、名古屋・同支店、越中・中島出張店。
- * 52 「開化起源史」序文。英国ジョン・ルボック著、井出徳太郎訳述、博聞社版。三二二頁。明治一九年一月。
- 明治二〇年
- 53 「小学歴史」全三卷、金港堂、全一五三丁。明治二〇年二月。
- 54 「物産論」『交詢雜誌』二七六・二七八号、明治二〇年一月・五日、二五日。
- 55 「政論ノ発行ヲ祝ス」雑誌『政論』第一号、明治二二年五月。
- 56 「小幡君鷗遊館宴会の祝辞」『交詢雜誌』三二六号、明治二二年二月一五日。

57 「農工商の未来を論ず」『交詢雑誌』三五一号、明治三三年二月二十五日。

三三年五月二〇日。

『下野同志会第三回総会演説筆記 小幡篤次郎君述』、明治三三年二月三日発行、編集兼発行人・馬場順五郎

67 「一夫一婦」『学報』三六号、明治三四年二月。
68 「青年の独立」『学報』三七号、明治三四年三月。

(栃木県平民)にも転載。

58 「天変地異」台湾総督府民政部学務課訳、明治三三年。

これらの小幡著訳作の中で、これまで研究論文の組上に載せられたもの、および小幡の著訳作の一部分についても言及のある研究論文の中で知り得た限りのものを左に掲載する。番号は右の著作目録の通し番号に対応している。

59 「通俗選挙人心得」序文。宮川四郎述、小幡篤次郎序。政治学講習会、明治三三年六月。

60 「交詢社第十三回大会報告に次て聊か所思を陳ふ」『交詢雑誌』四三六号、明治三五年四月五日。

4 「博物新編補遺」

61 「日本の地位を論ず」『交詢雑誌』四六一号、明治二六年一月五日。

松永俊男「チエンバース著『科学入門』と小幡篤次郎訳『博物新編補遺』」(『桃山学院大学人間科学』第二四号、二〇〇三年)

62 「欧州に航路を開くべきの案」『交詢雑誌』四八九―四九一号、明治二七年二月一日・二七日、三月一日・二七日、四月一日・二五日。

10 「英氏経済論」
進藤咲子「小幡篤次郎訳『英氏経済論』の訳語」、『英氏経済論』及び原文の翻刻並びに解説」(『明治時代語の研究―語彙と文章―』明治書院、一九八一年)

明治三〇年

63 「幣制改革問題 小幡篤次郎氏意見」『交詢雑誌』号外、明治三〇年三月七日。

16 「内地旅行ノ駁議」

64 「福沢英之助君ヲ弔フノ文」明治三三年一月八日。

平石直昭「福沢諭吉の戦略構想」『文明論之概略』期までを中心に」(『社会科学研究』第五一卷一、東京大学社会科学研究所、一九九九年)

65 「下手と自慢」『学報』二三号、明治三三年一月。

66 「修身要領の由来」(演説)『交詢雑誌』五六〇号、明治

18 「嫡子ニ限り家督相続ヲ為スノ弊ヲ論ス」

30

『議事必携』

28

「女工場の開業を祝するの文」

西沢直子「小幡篤次郎考Ⅲ」女工場の開業を祝するの文」をめぐって」(『近代日本研究』第一九卷、慶應義塾福沢研究センター、二〇〇三年)

27

『弥兎氏宗教三論』

小泉仰「ミルの『宗教三論』と福沢諭吉の宗教観」(『近代日本研究』第二卷、慶應義塾福沢研究センター、一九八六年)、及び『福沢諭吉の宗教観』(慶應義塾大学出版会、二〇〇二年)第四章「ジョン・スチュアー・ト・ミルと福沢諭吉」言及。松崎欣一「三田演説会と慶應義塾系演説会」(慶應義塾大学出版会、一九九八年)言及。

22

『家庭叢談』誌上のトクヴィル訳出。

松田宏一郎「福沢諭吉と「公」・「私」・「分」の再発見」(『立教法学』四三号、立教法学会、一九九六年)注と言及。

67

「一夫一婦」

村上幸子「小幡篤次郎と『議事必携』」(『福沢手帖』第九〇号、一九九六年)、「会議法の移入と発展」(漢水社、一九九三年)。宮村治雄「『御誓文』と『会議弁』の間」(『開国経験の思想史―兆民と時代精神』東京大学出版会、一九九六年)言及。

*を付したものは西沢、竹田両氏より教示を受けたものである。